

言語能力を統合して解決する問題②（第4学年）

報告者 松下大介

1 第4学年における問題出題の意図

- 問題1は、太郎さん、花子さん、次郎さんの3人の子どもが、資料を読み取って書いた文章の中から間違いを見いだすものである。太郎さんは、ポスターAから読み取れる3つの気を付けることについて記述している。次郎さんはポスターA、Bの両方に共通しているキャラクターについて記述している。両者とも資料から述べるができる。一方、花さんは、ウイルスについて読み取れることを書いている。しかし、インフルエンザウイルスという限定されたウイルスについての記述は読み取ることができない。ここでは、3人それぞれの文章をポスターと関連させながら読み、資料を根拠に間違いを探すことが必要になる。3人の文章において根拠となる部分の有無を判断できるかがポイントである。
- 問題2は、ポスターAとBに共通する事柄を見いだすものである。解答例としては、大事なことを3つ、番号を付けて書いていること、どちらのポスターにも「手を洗う」ことが書いてあること、文だけではなく挿絵（イラスト）を使っていること、トイレの使い方について書いていること、両方のポスターを「日本トイレ研究所」が作っていることが挙げられる。ここでは、2枚の構成や内容の違う資料から共通する点を見いだすことができるかがポイントである。
- 問題3は、「教室にポスターを1つはる」ということから、ポスターAかBを選択し、その理由を自己の生活経験や現在の社会の状況を根拠に記述する問題である。この問題は、いかに論理的に自分の考えを述べることができるかが大切である。解答例としては、Aでは、災害がいつ起こるか分からないから意識しておくこと、Bは現在流行している新型コロナウイルスに関連させて言及していれば正答となる。ここでは、選択の理由を生活経験や社会の状況を根拠に自分の考えを記述できるかがポイントになる。
- 問題4は、「もし大きな地震が起きたらそのままトイレを使わない」という場面が限定された場合に、理由をポスターから読み取って述べたり、結果を予想したりして記述する問題である。ポスターAに、「もし大きな地震がきたら そのままトイレを使わないで!!」とあり、その内容として、「うんちが流れない」「トイレがつまる」とある。そのことを使って、結果として周りへの迷惑や使い方について関連させて記述できていけば正答となる。この問題についても論理的に記述できているかがポイントとなる。

2 調査の結果及び考察

表1 R4年度（6月→11月）とR3年度（6月→2月）における各問題の正答率（%）

※6月より10%以上差異がある値は△（増加）か▽（減少）、20%以上なら▲（増加）か▼（減少）

| 年度\問題 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
|--------------------|---|-----------|------------|------------|------------|
| R4 | ○ | 86.6→81.3 | 60.4→59.3 | 69.2→59.3 | 8.8→31.9▲ |
| | △ | | | 12.1→12.1 | 86.8→49.5▼ |
| | × | 13.2→18.7 | 39.6→40.7 | 17.6→28.6△ | 3.3→18.7▽ |
| | 無 | 0.0→0.0 | 0.0→0.0 | 1.1→0.0 | 1.1→0.0 |
| R3 (昨年度 4年生) | ○ | 73.3→82.2 | 69.3→82.2△ | 68.3→87.1△ | 16.8→47.5▲ |
| | △ | | | 23.8→6.9▽ | 64.4→50.5▽ |
| | × | 25.7→17.8 | 30.7→17.8▽ | 7.9→5.9 | 18.8→2.0▽ |
| | 無 | 1.0→0.0 | 0.0→0.0 | 0.0→0.0 | 0.0→0.0 |

- 問題1、2、3に関しては問題によって差はあるが、6月に比べて、また、昨年度の4年生に比べ正答率が大きく下がった。特に下がった問3について、その理由としては、ポスターを選んでその根拠を記述する際、難しく考えすぎてポスターを比較したり分かりやすい工夫を見つけたりすることができていなかったと考えられる。つまり、問1から問3に関して下がった要因としては、児童は書いている情報の中から違うことが隠れているのではないかと深読みしすぎたと言えるのではないかと。
- 6月に比べて正答率が上がった児童（児童A）と全問正答の児童（児童B）に「総合的な学習の時間（「鯨っ子学習」を含む）でどのように取り組んでいるか」について尋ねたところ、児童Aは、算数で学習した表やグラフを使って分かりやすくすることを意識していた。一方、児童Bは、文字の強調や言い換えに着目して取り組んでいることが分かった。このことから、児童Aは、「整理・分析」に、児童Bは「まとめ・発表」に着目しており、それぞれ取り組む視点を意識していることが正答率の高さからもうかがえた。
- 指導する側においては、情報を読み取った上で、自分の考えをまとめ、表現する際に、読み取った情報が正しくとらえる（インプットする）ことができているか、読み取った情報を解釈して表現すること（アウトプット）ができているかを意識した指導を講じる必要がある。